

2014 年度秋学期 授 業 評 価 報 告

科目区分名	現代こども学科	科目
-------	---------	----

アンケート結果、今後の改善、その他特記事項（授業方法の工夫等）についての総評

2013 年度秋学期と比べて、Q1 から Q9 までのすべての項目において数値が上昇した学科は 3 学科のみであり、本学科はその 1 つである（その他の 2 学科は国際教養学科と医療薬学科）。

また、Q1 から Q9 までのすべての項目において、全学平均を上回った学科は 3 学科のみであり、本学科もその 1 つである（その他の 2 学科は音楽学科と国際教養学科）。

さらに、Q10 の DWCLA10 については、本学科はすべての項目において全学平均を上回っていた。全学平均を上回ったのは、現代こども学科科目と教職に関する科目のみである。

2013 年度秋学期において、全学平均よりも本学科が下回った項目は Q4「授業時間以外の学習に 1 週あたりどれくらいの時間を費やしましたか」と Q9「授業のレベルはどうでしたか」の 2 つであったが、今学期はいずれの項目も改善された。Q4 については、全学平均 0.67 に対して 0.81、Q9 については、全学平均 3.58 に対して 3.64 と数値が上昇し、改善がみられた。

Q1「授業内容を理解できましたか。」の本学科の平均は 4.40（全学平均は 4.13）、Q2「授業に意欲的に取り組みましたか。」の本学科の平均は 4.41（全学平均は 4.11）、Q3「授業を通じて知的好奇心が刺激されましたか。」の本学科の平均は 4.37（全学平均は 4.06）、Q5「教員の話は聞き取りやすかったですか」の本学科の平均は 4.40（全学平均は 4.16）、Q6「教員の授業方法は工夫されていましたか」の本学科の平均は 4.30（全学科平均は 4.08）であり、この 5 項目についてはいずれも全学平均よりも 0.2 ポイント以上、最大 0.3 ポイント高かった。本学科の科目には、小学校教員免許や幼稚園教員免許に関する科目、保育士養成課程の科目が比較的によく含まれている。これらの科目では、グループによる授業づくりと模擬授業実践、保育に関する模擬実践など、グループでの相談、作業、活動が設定されており、アクティブな学習場面が比較的多い。このアクティブな学習が、学生の意欲の喚起、知的好奇心の向上に結びついていると思われる。

Q10 の DWCLA10 については、思考力が 61.6 と最も高く、次が分析力の 41.2、その次がプレゼンテーション力の 32.7 であった。思考力については、本学科は国際教養学科の 65.0、日本語日本文学科の 62.6 に次いで高かった。分析力については、本学科は食物科学専攻の 46.3、国際教養学科の 45.4、日本語日本文学科の 44.9 に次いで高かった。プレゼンテーション力については、本学科は国際教養学科の 38.5 に次いで高い値であった。コミュニケーション力についても、本学科は国際教養学科の 38.3 に次ぐ 31.3 であった。現代こども学科は、「こども」を扱う大人の育成という側面が強いことから、大学の授業の中で、個人またはグループが発表する場面や他人に説明する場面が多く取り入れられている。それらの個々の授業の成果が数値として表れていると察する。これらの点については、今後も維持していけるように留意したい。

上記の枠内に収まる範囲内でご記入ください。